

輸入塊流入などで需給は過剰気味か

アルミ新地金、スクラップ二桁減
輸入は

橋本健一郎氏リポート①



橋本健一郎氏

七月前半は、英国のユーロ
離脱に伴う英国不動産下落
観測に伴うフランドの解約
取引停止、中国上海株が再
び三、〇〇〇を割り込むな
どのマイナス材料もあったが、NYダウが二〇一

五年五月十九日に付けた過去最高値を約一年
二カ月ぶりに更新したこと、前半の中国の銅輸
入が前年比二二%増の二七四万トンだったこと
を好感しLMEアルミ相場はUP、七月一五
日時点一六八三ドル(現物後場買入)と月初価
格から四三ドルUPの前半締めとなった。

後半は、NYダウが、前日比三六・〇二ドル
高の一五八五五・〇三ドルで九営業日続伸、
七営業日連続で過去最高値を更新などのプラ
ス材料もあったが、中国国家統計局の六月のP
MIが五カ月ぶりに四九・九と五〇を割った事、
サウジアラビアがアジア顧客向けの原油価格は
引き下げたこと、ECBの金利据え置きなどの
マイナス材料を受けてDOWN、八月二日現在
でLMEアルミ(現物後場)一、六二九・五ドル
と後半スタート価格から四七ドルDOWNして
のスタートとなった。

◆月間のドル/円レート(TTS)

一〇四・一四→一〇二・九九(円)。

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、自動車生産台数
は前年比一%減の八〇万四、二〇一台であった。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動車
販売台数(軽除く)は前年比〇・二%減の二八万
一、七五三台。

◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数
は前年比二・五%減の八万五、九五三戸であつた。

◆貿易関連指標

輸出

財務省貿易統計によれば輸出はアルミ新地金
が前年比二九・三%減の二二八t、二次合金が
四二・二%増の一、九五一t、スクラップが一八・
二%減の九、九二二t、アルミ缶が二七・九%増
の四、二〇四t。

輸入

アルミ輸入は新地金が前年比一八・二%減の一

二万五、七七九t、二次合金が一・八%増の九万
二、七一九t、スクラップが一・七%減の六二二
t、合金スクラップは四二・二%減の二、六六七t。

■前月の国内指標

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出
荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比
一・四%減の一七万六、二九二t。

日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム
二次合金・同合金地金等生産実績は、前年比一・
九%増の六万七、六〇九tであつた。

■概況

【自動車生産】

六月の四輪車生産台数は八〇万四、二〇一台
で、前年同月の八一万一、九九二台に比べて七
七九一台(一・〇%)の減少となり、二カ月ぶりに
前年同月を下回つた。六月の車種別生産台数は、
乗用車が六七万九、六四三台で三、八二九台
(〇・六%)の減少となり、二カ月ぶりのマイナス。
トラックが一萬二、七三〇台で二、八八三台
(二・五%)の減少となり、一四カ月連続のマイナ
ス。バスが一萬一、八二八台で一、〇七九台(八・
四%)の減少となり、七カ月連続のマイナス。

六月の国内需要は四二万〇、九〇七台で、
前年同月比四・九%の減少であつた。うち乗用車
三四万四、三二四台で前年同月比五・六%の減
少、トラック七万五、四八四台で同一・六%の減
少、バス一、〇九九台で同一五・〇%の増加。
輸出は前年同月比一・一%の増加(実績)。

【自動車販売】

七月の国内自動車販売台数(軽除く)は二
八万一、七五三台で前年比〇・二%減と、四カ
月ぶり減少。うち乗用車〇・六%減、貨物二・一
%増、バス二・〇・四%増。

【住宅着工数】

・平成二十八年六月の住宅着工戸数は八万
五、九五三戸で、前年同月比で二・五%減と
なった。また、季節調整済年率換算値では一
〇〇・四万戸(前月比一・三%減)となった。
・住宅着工の動向については、前年同月比
で六カ月ぶりの減少となつており、利用関係
別にみると、前年同月比で持家、貸家は増、
分譲住宅は減となった。

・引き続き、今後の動向をしつかりと注視
していく必要がある。(六面へ続く)

(四面より続く)

【アルミニウム二次合金 同合金地金等生産実績】

前年比一・九%増の六万七、六〇九tと四カ月連続プラス。出荷は三・七%増の六万九、三一〇tと四カ月連続プラス。このうち、出荷先別では、鋳物三%増、ダイカスト五・五%増、板五・二%減、押出二・七%減、鉄鋼〇・三%増、合金地金メーカー三・三%増。

【アルミ圧延・押出品生産数】

一・四%減の一七万六、二九二t。

【輸出】アルミ新地金が前年比二九・三%減の一・二八t。二次合金が四二・二%増の一、九五一t、スクラップが一八・二%減の九、九二二t。アルミ缶が二七・九%増の四、二〇四t。

【輸入】アルミ新地金が前年比一八・二%減の一・二五五、七九七t。二次合金が二・八%増の九万二、七一九t、スクラップが一・七%減の六二二t、合金スクラップが四一・二%減の二、六六七t。

【見通し】

・自動車は生産が一%減。六月の国内販売台数が前年比〇・二%減。生産が二カ月ぶりマイナス、販売が四カ月ぶりマイナス。今後の動向に注目。

・住宅着工の動向については、前年同月比で六カ月ぶりの減少となっており、利用関係別にみると、前年同月比で持家、貸家は増、分譲住宅は減となった。引き続き、今後の動向をしつかりと注視していく必要がある。

・アルミ圧延・押出品生産数は生産がマイナスに転ずるも、出荷は二カ月連続でプラス。

・アルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は増加、合金メーカー向けへの出荷が三・三%増。

・輸出は内需の低迷を受けて二次合金は大幅増加。スクラップは荷余り感からアルミ缶が増加。

・輸入は内需の低迷や円高から減少。

【スクラップ需給予想】

流通在庫は、住宅、自動車生産の低迷を受けて発生が少ないものの、円高を受けての安い輸入塊の流入や、夏季休業などから需給は過剰気味になるのではないかと。

【価格・為替予想】

今月は、再び四〇ドルを割った原油と、三、〇〇〇を割った中国上海株を受けて中

国の金融政策に左右される。

原油の価格に関しては、中国景気の後退・需要減の影響は当然あるもののサウジアラビアがアジア向けの原油の価格を引き下げたことから、OPECでの価格調整が再び困難になる可能性が高く、四〇ドルを長期的に下回る可能性が高いのではないかと。

中国国家统计局のPMIが再び五〇を割り込んだことを受けて、追加緩和がされる可能性があるが効果は限定的ではないか？

それらを踏まえた八月のアルミ価格は、原油価格が四五ドル程度まで回復し、中国の追加緩和が行われ上海株が三二〇〇まで回復した場合、一、七〇〇ドル超えを予測。いずれの場合は一、六五〇ドル。下値はいずれの条件も達成できなかった場合、七月安値の一、五五〇ドル。

為替は米利上げ観測の後退や日銀の金融緩和策が不発に終わった現状、追加的な金融緩和策が難しいことから円高が続くのではないかと。それらを踏まえ予測は、上値は日本が何らかの為替対策結果的に一切行わず、米利上げ観測が後退した場合、一〇〇円台(TTM)を予測。下値は、日本がさらなるマイナスイ金利策や為替介入などを行い、米利上げ観測が台頭した場合、七月後半安値の一〇七円を予測。

スクラップ購買価格に関してはマイナス五〇円程度と予測している。

COMEX銅在庫

六五、五〇九トン
三、日 変わらな

LME非鉄在庫 (8月3日発表分)

	入庫	出庫	8月2日 現在	増減
銅	2,450	4,750	207,350	- 2,300
{ GAW	0	0	0	± 0
{ GAC	2,450	4,750	207,350	- 2,300
す	0	50	5,480	- 50
鉛	2,075	425	188,725	+ 1,650
亜鉛	0	525	430,625	- 525
アルミ	0	6,300	2,278,250	- 6,300
二次合金	0	0	11,600	± 0
ニッケル	0	372	372,378	- 372
アルミ二次(NASAA)	0	0	62,820	± 0

(単位：トン)